

東京都小中学校環境教育研究会会報

東京の青い空 第74号

会 長 箱崎 高之 調布市立上ノ原小学校 TEL 042-485-1271

事務局長 伊藤 修久 世田谷区立玉堤小学校 TEL 03-3521-1164

HP <http://kankyokyoiku.jp>

この暑さを感じているのは、私たちだけではない

東京都小中学校環境教育研究会長
調布市立上ノ原小学校長 箱崎 高之

「今年の夏も暑かった、そして長かった。」このところ、毎年のように「今年の夏は暑いですね。」と言っている気がします。夏の暑さが以前のものとは違ってきているのを誰もが感じているのではないのでしょうか。それに加えて、「夏が長い」と感じているのも私だけではないと思います。実際に東京都心では、今年観測史上最も遅い猛暑日を9月18日に記録しました。

この暑さは、学校における教育活動にも様々な影響を与えています。体育の時間や休み時間の前には、暑さ指数(WBGT)計を確認し、活動の可否を判断することが日常となりました。近年では、暑すぎてプールに入ることができないということも増えてきました。夏季休業中の水泳指導においても、水質を管理し、準備を整えておいても、中止になることが度々あり、自治体によっては夏季休業中の水泳指導そのものをなくしたところもありました。

このような状況の中、生活科の学習でアサガオを育てていた1年生の担任から「なんだか、アサガオの種が全然とれないんですね。」という声が聞かれました。夏の間たくさんの花を咲かせていたアサガオ、「そんなはずはないだろう」と思って見てみると、確かに枯れた花はたくさんあるのですが、それに比べると明らかに種の数が少ないようです。ほかの先生にも聞いてみると、中には「うちのクラスはそんなことないですよ。」という先生もいます。同じ業者から購入したアサガオの種、同じ植木鉢、同じ培養土、そして同じ学校の敷地内で育てたのにこの違いはなぜ起きたのか。水やりの頻度や愛情のかけ方の違い？そんなことを考えて眺めていると、両者の違いに気が付きました。それは、鉢の置いてある場所です。種がよくできていたクラスは、アサガオの鉢を置いている場所の南側に体育館があり、日当たりがあまり良くなかったのです。一方、種があまりできていなかったクラスは、とても日当たりのよい場所にアサガオの鉢を並べていました。どうやら、日当たりがよく、あまりに暑い夏は、アサガオにとってもつらいものだったようです。都内の知り合い



に調査を依頼したところ、21校中61.9%の学校で種の数が増えているか、全くできていないということも分かりました。また、4年生で栽培する「ヘチマ」も似たような状況であることも分かってきました。

調べてみますと、この現象には2つの原因が考えられるようです。いずれも、もとにあるのは高温です。一つは、気温が高すぎて、水分の蒸発と直射日光の強さで花がしおれていくスピードが急激であるため、しおれていく段階でめしべに花粉がつかなくなったり、受粉しても子房が成長するより早く枯れてしまったりすること。もう一つは、気温が高すぎて、蜜を吸う昆虫が飛来していないこと。確かに今夏は蚊が少ないと感じていました。夏の暑さが明らかに一段上がって、昆虫の生息域も変わってきているのでしょうか。温暖化が生物多様性に影響を与えられると言われるゆえんです。ただ、アサガオに関しては自家受粉するため、昆虫の影響は少ないかもしれません。

アサガオは栽培が容易で、種まき、発芽、開花、結実の時期が教育課程と合致する生長の観察がしやすい植物です。しかし、温暖化により気温上昇が毎年続く現状を考えると、アサガオの栽培についても何らかの対策を講じていくことが必要になるかもしれません。そして、温暖化そのものについても子供たちとともに考え、具体的に行動を起こすための学びが必要となることは言うまでもありません。

令和6年度東京都小中学校環境教育研究会総会報告

令和6年6月27日(木)、書面にて東京都小中学校環境教育研究会総会を開催しました。

議事として、令和5年度事業報告、決算報告、会計監査報告、新役員承認、令和6年度事業計画案、予算案、研究計画案について審議し承認されました。

◆令和5年度事業報告

1 令和5年度総会 6月8日～21日
書面総会

2 研究部の活動の充実

(1) 研修会

- ・自然観察会 令和5年8月4日 御岳山
- ・夏季研修会(エネルギー研修会)

令和5年8月7日

J-POWER横浜・磯子石炭火力発電所

- ・夏季研修会(スチール缶リサイクル協会工場見学会)

令和5年8月8日

さいたま市桜環境センター・東洋製缶埼玉工場

- ・夏季研修会(東京都環境公社主催環境教育研修会)

令和5年8月9日 WEB

(2) 授業実践と事例報告

3 全国小中学校環境教育研究会と連携
第55回全国小中学校環境教育研究大会
(第59回東京都小中学校環境教育研究会発表会と共催)

令和6年1月26日

対面・オンライン同時開催

講演 「気候危機にどう向き合うか」

～参加者とのディスカッションを交えて～

講師：東京大学未来ビジョン研究センター 教授

国立環境研究所 地球システム領域

上級主席研究員 江守 正多 氏

4 会報「東京の青い空」第72・73号発行

◆令和5年度決算報告

1 収入

項 目	予算額	決算額	適用
繰 越 金	1,893,120	1,893,120	R4年度繰越
分 担 金	850,000	897,300	1校1000円等
研究奨励費	160,000	0	弘済会研究助成奨励金
研究助成金	198,000	190,000	東京都研究助成金
利 息	0	17	2回分
計	3,101,120	2,980,437	

2 支出

項 目	予算額	決算額	適用
総 会 費	40,000	0	書面開催のため
会 場 費	70,000	45,000	研究会会場費
事 務 費	30,000	5,566	事務経費
研 究 費	700,000	15,000	環境学会会費
講 演 会 費	300,000	30,000	講師謝礼
見 学 費	60,000	16,000	交通費補助
印刷広報費	300,000	206,761	機関誌代
通 信 費	50,000	11,656	送 料 費
全国大会費	300,000	300,000	全国大会紀要、運営補助
発表会費	348,000	150,000	運 営 費
全国小中学校環境教育研究会	0	300,000	絵画コンクール補助
予 備 費	708,310	0	
計	2,906,310	1,079,983	

差引残高1,900,454円は、次年度に繰り越します。

3 会計監査報告

上記の決算について監査により相違ないことを認めます。

令和6年6月8日

会計監査

元多摩市立連光寺小学校長 棚橋 乾

元品川区立大井第一小学校長 藤森 克彦

◆令和6年度事業計画

1 令和6年度総会

令和6年5月20日～30日 書面総会

2 研究部の活動の充実

(1) 研修会

- ・自然観察会 令和6年8月2日 御岳山
- ・夏季研修会(東京都環境公社主催環境教育研修会)
令和6年8月8日 対面開催
- ・J-POWER 先生方のためのエコ×エネ
体験ツアー2024 水力編(奥只見ダム)
令和6年10月26, 27日

(2) 授業実践と事例報告

3 全国小中学校環境教育研究会と連携

第56回全国小中学校環境教育研究大会
(第60回東京都環境教育研究発表会と共催)
令和6年12月26日(木) 13:00～16:45
エコギャラリー新宿
講演「EVシフトはCO₂削減の救世主になれるのか？」
講師: Touson自動車戦略研究所代表 自動車・環境技術戦略アナリスト
愛知工業大学工学部客員教授 工学博士 藤村 俊夫 氏

4 会報「東京の青い空」第74・75号発行

◆令和6年度予算

1. 収入

項目	予算額	適用
繰越金	1,900,454	R5年度繰越金
分担金	850,000	分担金1校1,000円等
研究助成金	190,000	東京都教職員研修センター研究発表報償費
利息	17	
計	2,940,471	

2. 支出

項目	予算額	適用
総会費	50,000	総会要項印刷等
会場費	100,000	定例役員会、研究部会、研究員発表会費
事務費	10,000	事務経費

研究費	300,000	集録作成、研究資料費、環境教育学会会費、夏季研修費
講演会費	100,000	講師謝礼
見学費	50,000	研修会見学費、交通費補助
印刷・広報費	300,000	「東京の青い空」・WEB更新費 ホームページ更新料
通信費	30,000	通信・送料費
環境絵画コンクール補助費	350,000	コンクールにかかる諸経費
全国大会費	300,000	全国大会紀要作成補助 運営補助等
発表会費	150,000	全国大会研究会補助費
予備費	1,200,471	
計	2,940,471	

◆令和6年度役員

役職	氏名	学校名	役職
顧問	棚橋 乾	元多摩市立連光寺小学校	元校長
	國分 重隆	教育庁指導部指導企画課	専門員
	藤森 克彦	元品川区立大井第一小学校	元校長
会長	箱崎 高之	調布市立上ノ原小学校	校長
副会長	關口 寿也	多摩市立連光寺小学校	校長
	伊勢 明子	杉並区立高井戸小学校	校長
事務局	事務局長 伊藤 修久	世田谷区立玉堤小学校	校長
	次長 佐藤 弘典	世田谷区立城山小学校	校長
研究・広報部	部長 鈴木 元	町田市立ゆくのき学園(小中一貫)	校長
	副部長 井田 孝	港区立芝浦小学校	校長
	副部長 佐々木 哲哉	八王子市立中野北小学校	主幹教諭
研修部	部長 森田 哲生	日の出町立平井小学校	校長
	副部長 天野 拓二	多摩市立鶴牧中学校	副校長
	副部長 田中 新一	三鷹市立(三鷹中央学園)第三小学校	副校長
会計部	部長 棗 まゆみ	羽村市立栄小学校	校長
	副部長 坂野 真貴子	多摩市立多摩第三小学校	校長
	会計指南 鈴木 朝代	杉並区特別支援教育課	元校長
	会計指南 鯉坂 映子	町田市立鶴川第三小学校	校長
会計監査	棚橋 乾	元多摩市立連光寺小学校	元校長
	藤森 克彦	元品川区立大井第一小学校	元校長
OB役員	富田 広	多摩教育事務所指導課	指導専門員
	杉本 茂雄	元中央区立阪本小学校	元役員
	宮原 元	品川区教育委員会学校地域連携係	コーディネーター
	末吉 潤一	元江戸川区立西小岩小学校	元校長
	邊見 公子	元杉並区立桃井第二小学校	元校長
	阿閉 暢子	元多摩市立愛和小学校	元校長
	野澤 由美	府中市立教育センター	指導員
	佐々木 智津子	元中野区立鷺ノ宮小学校	元副校長

夏季研修会報告①

御岳山自然観察会 ～東京山間部の豊かな自然と野生動物との共生～

日の出町立平井小学校 校長 森田 哲生

8月2日(金)に青梅市の御岳山で3年目となる自然観察会を実施しました。小・中学校の教員、合わせて31名の参加がありました。今年も募集を開始した当日に定員に達してしまい、急遽10名ほどの追加をした人気の観察会です。今年のテーマは～東京山間部の豊かな自然と野生動物との共生～。昨年度に引き続き、元御岳ビジターセンター解説員であり、現在は「東京の川と森」をフィールドに自然ガイドとして活動されている宮田 浩 先生を講師に迎え、御岳山の自然の中で、「ムササビの暮らしと森林の関係」「レンゲショウマの生存戦略」「ニホンジカとニホンカモシカによる地域植生の影響と野生動物との共生」などについて学びました。

午前中はロックガーデンまでフィールドワーク。途中ニホンカモシカに遭遇。「本来奥山にいるはずのニホンカモシカがなぜ御岳山にいるのか？」ニホンジカの増加の関係とコロナ禍のロックダウンから、ニホンカモシカの生息場所の変化を考えました。昼食後は元青梅市文化財保護指導員であり「宿坊 嶺雲荘」のご主人である須崎 直洋さんによる御岳山講和もお聞きし、御岳山や宿坊の歴史にも触れることができました。最後は、6月にオープンしたばかりの展望ブランコ「ムササビスウィング」の体験もでき、大変充実した研修会となりました。



夏季研修会報告②

東京都環境局主催・小学校教育向け環境教育研修会 第5回「いまさら聞けないSDGs 第二弾」

八王子市立中野北小学校 主幹教諭 佐々木 哲弥

8月8日(木)に東京都環境局が主催する、小学校教員向け環境教育研修会「やってみよう！ 環境教育プログラム」の第5回「いまさら聞けないSDGs 第二弾」が、公益社団法人 東京都環境公社にて行われました。この研修に、全国小中学校環境教育研究会会長、東京都小中学校環境教育研究会研究広報部部長、同副部長、同研究員の4名が講師として参加しました。これまで本講座で積み重ねられてきた環境教育に関する知見を活用し、カリキュラムづくりを通して、実践のヒントを掴むことが目的です。当日は12名の参加者でした。

前半は、講義です。近年の温暖化に起因する諸問題の現状や温暖化の防止に向けた取り組み、SDGsを達成するために求められるESDの学びを実現するための方法、全国の実践事例等の説明を行いました。

後半はSDGsを達成するためのESDのカリキュラム作りです。3つのグループに分かれて活動しました。

小学校6年生を対象に「江戸川の50年後を守る」をテーマにしたグループでは、各教科と関連付けながら、身近な河川のごみ拾いの体験から課題をつくり、解決に向けて取り組みながら学んだ成果を、地域の方へ発信する、というカリキュラムを作成しました。

小学校6年生を対象に「港区のことを調べ、魅力を発信する」をテーマにしたグループは、大使館や施設等の都市の人的資源を有効活用し、他国との比較のなかで自分たちの街のよさを見出し発信しよう、というカリキュラムを作成しました。

小学校5年生を対象に「豊かな善福寺川を守ろう」をテーマにしたグループは、地域の都市河川について、区役所や地域の環境ボランティアと連携しながら学びを積み重ね、地域版SDGsを作って、区長に提案する、というカリキュラムを作成しました。

どのグループも前半の講義の内容をもとに、自然環境や人的環境などの地域資源を活用した、個性豊かなESDカレンダーとなりました。最後はグループごとに発表し、互いの学びを認め合いました。今回この研修に参加し、それぞれのグループでの議論を伺いながら、柔軟に地域資源を活用すること、より豊かな出会いや体験をカリキュラムの中に教科と関連付けながら位置付けること、身近な環境に親しみながらSDGs達成に向けてESDの学びを深めること等が大切だと改めて考えました。SDGsの年限に向け、研修に参加された先生方が、それぞれ学校でESDやSDGsの実践、地球温暖化を防ぐ発信源となってくれることを切に願っています。



夏季研修会報告③

東京都カーボンハーフ推進教育フォーラム 報告

町田市立小中一貫ゆくのき学園 校長 鈴木 元

I 開催日時・会場

7月25日（木）パルテノン多摩

29日（月）きゅりあん品川

両日とも13時30分から16時30分

II 報告

東京都教育委員会主催でカーボンハーフ推進教育フォーラムが行われました。都内小中学校から各1名以上の教職員が集い、東京都の掲げるカーボンハーフ推進教育について都教育委員会、東京都環境局の施策説明、事例発表、ポスターセッション、講演等が行われました。事例発表では、町田市立小中一貫ゆくのき学園の事例とともに、本研究会の研究部の研究事例を紹介しました。また、中学校の事例として豊島区立北巣鴨中学校の事例が紹介されました。

後半では、「気候の危機と社会の大転換」と題し、東京大学未来ビジョン研究センター教授 江守 正多先生（昨年度 本研究会研究大会講師）によるご講演がありました。江守先生は、これまでの地球温暖化を表す根拠資料をもとに、『脱炭素化』はしぶしぶ努力して達成できる目標ではない。社会の「大転換」が必要がある。」とお話しされ、多くの参加者は環境教育の大切さを実感している様子でした。



令和6年度東京都小中学校環境教育研究会研究主題

持続可能な社会づくりのための環境教育の推進

～環境教育「学校ビオトープの活用」によって育む学力と環境保全意識～

I 主題設定の理由

私たちの生活において、多くの場面でSDGsのアイコンを目にするようになってきている。また、子供たちの多くは、様々な環境問題について学ぶ機会が増え、環境保全意識が高まってきているように思われる。実生活では、紙ストローの利用やマイボトル持参の推奨などCO₂削減に向けて取り組まれている一方、ペットボトル飲料やプラスチック繊維の減少には、つながっていない。また、環境問題と言っても、扱わなければならない課題は、プラスチック問題、エネルギー問題、気候変動等と多岐にわたる。このままでは2030年にSDGsを達成することは、大変困難である。さらに2030年以降に向けて、一人一人の意識改革と行動変容がより一層重要になっていく。

これまでの本研究会の研究も踏まえ、より身近な環境への保全意識を醸成し、子供たちが自ら考え、取り組むことが、将来の行動変容につながると考えた。

そこで、今年度の研究は、総合的な学習の時間を中心とした「学校ビオトープ」の活用に焦点を当てた。多くの学校にある「ビオトープ」を活用した実践を行うことは、環境課題に対する行動変容に一見遠回りのように思われる。しかし、より身近な環境への保全意識を高めることで、多岐にわたる環境課題をより自分事として捉え、自分には何ができるのかを具体的に考え、行動することができるようにな

ると考えた。

— 私たちにはESDがある —

これまで本研究会が取り組んできたESDは、その実現を可能にすると思える。それは教育の、教師の、そして児童・生徒の変容をまさに希求するものである。

II 研究の方法

- (1) 役員定例会で理論構成
- (2) 本研究会で作成した「新しい環境教育」でしました児童・生徒の3つの能力・態度をもとに、研究部において授業開発、授業実践を行う。
- (3) 研究発表校、研究部員所属校、外部機関と連携し研究実践を深める。

III 研究の過程

- 1 学校現場でのESDの推進状況の確認
- 2 昨年度の研究成果の検証
- 3 研究部員の学校における授業実践
- 4 研究部員の学校間の交流授業実践
- 4 ポートフォリオによる授業検証

IV 授業実践例

- 1 第6学年「学校ビオトープの保全」
 - (1) 自分の学校のビオトープの現状を知る。
 - (2) 生物多様性、生態系の調査等を経て、学校ビオトープの抱える課題を見出す。
 - (3) 各自の取組と関連付けながら、探求をしていく。

第56回全国小中学校環境教育研究大会 第60回東京都小中学校環境教育研究発表会

【第一次案内】

木々の緑が色濃くなる時期となりました。皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。さて、全国小中学校環境教育研究会、東京都小中学校環境教育研究会では、標記の大会を開催いたします。つきましては、全国各地の小中学校、教育関係者をはじめ、多くの皆様のご参加をいただき、環境教育及びESDのさらなる充実と発展を図るべく、ここにご案内申し上げます。

《研究主題》 持続可能な社会づくりのための環境教育の推進 環境教育によって育む学力と環境保全意識

【日時】 令和6年12月26日（木） 13時00分～16時45分

場所 エコギャラリー新宿 東京都新宿区西新宿2-11-4

対面開催（後日期間限定録画配信予定）

【時程】	13:00	13:30	13:40	14:40	14:50	15:00	16:30	16:45
	受付	開会式	研究発表	講評	休憩	講演		閉会式

【講演】 「EVシフトはCO₂削減の救世主になれるのか？」

講師 Touson 自動車戦略研究所 代表 自動車・環境技術戦略アナリスト
愛知工業大学工学部客員教授 博士（工学）
藤村 俊夫 氏

講師プロフィール

1980年に岡山大学大学院工学研究科修士課程を修了後、トヨタ自動車工業（現トヨタ自動車）入社。本社技術部にて24年間、新エンジンの開発、エンジンのシステム部品設計に従事。2004年に基幹職1級（部長職）となり、将来エンジンの技術開発推進、パワートレーン戦略策定などを行う。2011年に愛知工業大学に転出し、工学部機械学科教授として機械設計工学、熱力学、自動車工学概論などの講義を担当。2018年4月京都市へ転居と同時に同大学工学部客員教授となり、Touson 自動車戦略研究所を立ち上げ、自動車関連企業数社の顧問をはじめ、コンサルティング、執筆・講演活動などを行う。

自動車技術会 代議員／論文校閲委員、機械学会会員。2003年「ディーゼルPM、NO_x同時低減触媒システムDPNR」で日本機械学会技術賞受賞

著書に『EVシフトの危険な未来 2022年4月発刊』『カーボンニュートラルを実現する自動車・エネルギー産業のあるべき「経営・開発」2022年9月発刊』（共に日経BP）がある。



【参加費】 対面参加・録画配信（資料代込）2,000円 ただし、全国会員は無料

【主催】 全国小中学校環境教育研究会 <<http://kankyokyoiku.jp/>>
東京都小中学校環境教育研究会 <<http://kankyokyoiku.jp/tokyo/>>

【後援】 文部科学省 環境省 東京都教育委員会 新宿区教育委員会 全国連合小学校長会
全日本中学校長会 東京都公立小学校長会 東京都中学校長会 日本教育公務員弘済会東京支部
日本ESD学会 日本環境教育学会 ESD活動支援センター 関東地方ESD活動支援センター
(申請中)

大会事務局 世田谷区立城山小学校 校長 佐藤 弘典
TEL 03-3429-2062 FAX 03-3429-2049
E-mail kou031@setagaya.ed.jp